

教 育 長 様

研究コース	
グループ研究 A	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
721642	
選定番号	139

代表者	校園名 :	大阪市立南港桜小学校
	校園長名 :	稻谷 哲也
	電話 :	0666130160
	事務職員名 :	木谷 友亮
申請者	校園名 :	大阪市立南港桜小学校
	職名・名前 :	教諭・島田 裕美
	電話 :	0666130160

令和 3 年度 「がんばる先生支援」 研究支援 報告書

◇令和 3 年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究 A	研究年数	継続研究（3年目）
2	研究テーマ		子どもが学ぶ・子どもしが学び合う授業づくり ～だれ一人見捨てず学び合う子どもの育成～		
3	研究目的		本校児童の課題は、本校の児童は自分の言葉で発表したり、友だちに自分の意見を伝えたりするのが苦手で学びが深まらず、教師主導の授業が多くなってしまうことである。そこで、自分の考えをもち自分の言葉で伝える力や、意欲を持ち学ぶことに前向きな子どもの育成をテーマとし、昨年度まで研究を続けてきた。そこで、学び合いの定義や、学び合う課題設定の在り方、国語以外の教科での学び合いの在り方について反省を得た。 今年度は、教科の枠にとらわれず、子どもたちが自ら学び合い、高め合う姿を目指し、研究を進めたい。そのため、だれ一人見捨てず学び合う子どもの育成をテーマとし、学び合いや対話のスペシャリストを招き、子どもたちが学び合いを体得するとともに、教職員の資質向上を目的とする。		
4	取り組んだ研究内容		いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。（MSゴシック 9.5pt イント） これまでの2年間の成果である「自ら自分の言葉で伝え、友だちの考えを聞きたないと学びに前のめりになる」子どもたちとともに、だれ一人見捨てない学び在り方を国語科の枠にとらわれず様々な教科で体現できるよう研究を続ける予定であった。しかし、コロナ禍でうまく実践の予定が組めず、今年度も国語科に焦点を当てて研究を進めた。 【子どもと大人の学び合い】 1) 子どもの姿から学ぶ研究授業の実施（2学期4回、3学期2回） 令和3年10月28日（木）4年生：読んで考えたことを伝え合おう「ごんぎつね」 11月10日（水）6年生：物語を読んで考えたことを伝え合おう「海のいのち」 11月29日（月）3年生：想ぞうしたことを伝え合おう「モチモチの木」 12月3日（金）1年生：しをよもう「みみずのたいそう」「しんぴんのあさ」 令和4年 1月21日（金）2年生：昔話をしようかいしよう「かさこじぞう」 1月27日（木）5年生：物語の魅力を伝え合おう「大造じいさんとガン」 【大人同士の学び合い】 2) 研究テーマを深め、指導技術の向上のために、先進的研究校及び研修会への派遣 筑波大学附属小学校 学習公開・初等教育研修会 オンラインにて参加 (令和4年2月11日（金・祝）12日（土）) 3) 全教職員すべての子どもを見る KJ法を使った研究討議会 校内研究授業後に実施（2学期4回、3学期2回） 4) コロナ禍でも学び続けるために、教育書籍を購入 【学び合いを深める環境づくり】 5) コロナ禍でも、学び合いを続けたり、子どもたちの活動の選択肢を増やしたりするために、備品を購入 ・学び合うための教室環境を整備するために、踏み台、ホワイトボードを購入 ・距離をとってできる遊びを増やすために、フライングディスク、ソフトバレーボール		

5		研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。								
			日程	令和4年2月15日	参加者数	約31名					
			場所	南港桜小学校							
			備考	新型コロナウイルス感染症拡大のため、校内研修に変更							
6		成果・課題	大阪市教育振興基本計画に示されている、 <u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u> および <u>教員の資質や指導力の向上</u> について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。								
			<p>【見込まれる成果1】 <input type="radio"/>他者や社会とともに生きていくための基礎をはぐくむ。</p>								
			<p>《検証方法》 経年調査の「学校の友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができますか」に肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。</p>								
			<p>〔検証結果と考察〕 【検証結果】 経年調査の「学校の友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができますか」に肯定的に回答した児童の割合は、3年生75%、4年生79%、5年生81%、6年生85%で、いずれも大阪市平均を上回った。</p>								
			<p>〔考察〕 3年間の研究実践を通して、教職員にも子どもたちにも学習の中で対話することや、さらに互いの考えを受け止めながら対話することが定着したからだと考える。</p>								
			<p>【見込まれる成果2】 <input type="radio"/>他者や社会とともに生きていくための基礎をはぐくむ。</p>								
			<p>《検証方法》 「学校の授業などで、学級の友達との間で、話し合う活動をよく行っている」の保護者の「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える割合を90%以上にする。</p>								
			<p>〔検証結果と考察〕 【検証結果】 本校教育アンケートにおいて、「学校で友だちとの話し合い活動をよく行っている。」の項目で保護者の肯定的な回答は78%で、目標を下回った。</p>								
			<p>〔考察〕 コロナ禍で、授業の中で話し合い活動の機会が例年よりも減っており、それに伴い、対話の場についての発信も減っていることが原因でないかと考える。</p>								
			<p>【見込まれる成果3】 <input type="radio"/>他者や社会とともに生きていくための基礎をはぐくむ。</p>								
7		成果・課題	<p>《検証方法》 教育アンケートにおいて、「自分で考えて、自分から動くことができている」の子どもの「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える割合を90%以上にする。</p>								
			<p>〔検証結果と考察〕 【検証結果】 本校教育アンケートにおいて、「自分で考えて、自分から動くことができている。」の項目で児童の肯定的な回答は91%で、目標を達成した。</p>								
			<p>〔考察〕 これまで「自分の言葉で発表しよう」とする児童の力を高めたり、話し合いを深める指導について教師の資質・能力を高めたりしてきた。友だちと対話したいという意欲につながり、何事にも前向きに取り組み自分の力を発揮しようとする児童が増加したと考える。</p>								

6	成果・課題	<p>【見込まれる成果4】</p> <p>○学習意欲を高め確かな学力を確立し、生涯にわたる学習の基礎を培う。</p> <p>《検証方法》 教育アンケートにおいて、「授業はよくわかる」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を90%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 〔検証結果〕 本校教育アンケートにおいて、「授業がよくわかる。」の項目で児童の肯定的な回答は91%で、目標を達成した。 〔考察〕 国語科の物語文の指導においては、教材分析をもとに、学習課題を提示し話し合い活動を行う授業が定着してきた。これまでの研修や実践で培ったことが生かされているため、達成できたと考える。</p> <p>【見込まれる成果5】</p> <p>○教職員の資質・能力の向上</p> <p>《検証方法》 研修会アンケートにおいて、「研修の満足度」の割合を90%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 新型コロナウィルス感染症の拡大により、予定していた講師の招へいや、研修会を行うことができなかつたため、アンケート調査を行えなかつた。</p> <p>【研究全体を通した成果と課題】 具体的に記載してください。</p> <p>【成果】 今年度は、教科の枠を超えた学び合いの在り方にについて研究を深める予定であった。しかし、コロナ禍での教育活動の制限や感染予防対策のため思うように予定を組むことができず、今年度も国語科について実践を行った。昨年度までの実践を活かし、教材分析を行ったり、子どもが自分が納得する答えや理由を求められる問いや、子どもの考えが多様に出る課題を設定した授業づくりを実践した。なかでも、『対話を深める』ことに焦点を当てて実践を進めると、子どもたちは進んで自分の言葉で考えを伝え、さらには友だちの考えを聞きたいと学びに前のめりになっていた。そこから、学習の得意不得意や、障がいの有無に関わらず、すべての子どもが参加して対話し高め合える仲間との関係が、学習の中で対話を深めるために欠かせないことを子どもの姿から学んだ。子どもを教材に引き込む問いを頼りに、互いに認め合える関係を持った仲間との対話が、子どもたちを高め合うサイクルに誘うことができる学んだ。【課題】 今年度が最終年度となるが、さらに研究を深化させるためには、今年度実施できなかつた教科を横断した学び合いの在り方や、なんでも話し合える子どもたちの関係づくりを授業の中でどのように作っていくのかについての研究や実践が必要である。</p> <p>《代表校園長の総評》 これから社会を見据えて、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目的に「子どもが学ぶ・子ども同士が学び合う授業づくり」をテーマにして「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進してきた。コロナ禍、国語科に絞っての実践にならざるをえなかつたが、発問の工夫をするなど「対話を深める」ことを主眼において実践してきたことにより上欄の成果があつた。子どもたちが、互いに個性を尊重し認め合える関係づくりを日々の学級経営や学年経営で醸成していくこともあわせて追及することで、公正・公平に自由な対話ができる教育環境となり、授業での学びに一層の効果が期待できるものと考える。</p>